

## あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

## みなと報告

## 「小松島港まつり2016」にて協賛行事を開催

徳島県小松島市の夏の一大イベント「小松島 港まつり2016」が、7月16日～17日にかけて開催されました。阿波踊りをはじめ、フラダンスショー、キッズダンス、花火大会等が主要行事として行われるなか、小松島港湾・空港整備事務所では協賛行事として、港湾業務艇「しまかぜ」による港見学会や海面清掃兼油回収船「みずき」の一般公開を実施いたしました。他にも、徳島海上保安部による巡視艇の体験航海、海上自衛隊によるヘリコプターの体験搭乗、護衛艦の一般公開が行われ、たくさんの方でにぎわいました。

港見学会は、「しまかぜ」が老朽化のため、今夏に引退することから、この船を一般開放する最後の機会となってしまいましたが、合計4便全てが満席となり、たくさんの方に、普段なかなか見ることができない海からの徳島小松島港の風景を楽しんでいただきました。

また、「みずき」の一般公開についても、普段見ることのない特殊な船であり、流木等の大型の漂流物を回収する際に使用するアーム操作を、実際に体験していただくなど、多くの家族連れの方などに見学していただきました。



↑しまかぜによる港見学会



↑みずきの一般公開

## INDEX▶

- みなと報告・・ 1  
「小松島港まつり2016」にて協賛行事を開催
- みなとインフォメーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2  
新旧港湾業務艇のバトン渡し
- なるほどみなと講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3  
徳島小松島港におけるクルーズ船の寄港
- みなと通信・・ 4  
小松島港湾・空港整備事務所 土木学会「技術開発賞」&全日本建設技術協会「全建賞」を受賞

## 新旧港湾業務艇のバトン渡し

### 「しまかぜ」退役

「しまかぜ」は、昭和62年3月に建造以来、平成28年7月までの29年4ヶ月の長きに渡り運航してきました。

この間、職員の監督業務の足として、また、測量船として、主に本港地区の防波堤改良事業、津田地区の木材埠頭整備事業、沖洲地区・沖洲(外)地区物流ターミナル整備事業、赤石地区岸壁整備事業等に従事してきました。また、中でも特筆すべき任務は、平成7年に発生した、阪神・淡路大震災の際、神戸まで救援物資輸送に尽力したことが挙げられます。

また年間数回開催されます、みなと見学会では市民の皆様には港の役割や徳島小松島港の魅力を堪能していただき、多くの皆様から愛されてきました。

### 「ひのみね」就航

当事務所3代目の港湾業務艇となる「ひのみね」は、平成28年7月に建造され、去る8月5日に就航式を執り行いました。本船の特徴は、海底地形探査装置を常時搭載している事で、海底地形の変化をいつでも調査できるようになったことです。これにより、災害時等でもいち早く復旧計画を立てるための情報を得ることができるようになりました。

今後は、命名理由となっている、小松島市のシンボルである「日峰山」のように、皆様から愛され続ける船となるように活用していきたいと思っております。



旧港湾業務艇「しまかぜ」

#### 〔船舶仕様〕

- 総トン数:21GT
- 全 長:17.0m
- 全 幅:4.2m
- 喫 水:0.86m
- 最大航海速度:20.6ノット
- 最大搭載人員:22名



新港湾業務艇「ひのみね」

#### 〔船舶仕様〕

- 総トン数:19GT
- 全 長:16.7m
- 全 幅:4.2m
- 喫 水:0.62m
- 最大航海速度:26.3ノット
- 最大搭載人員:20名



# こまぼんのなるほど！ みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

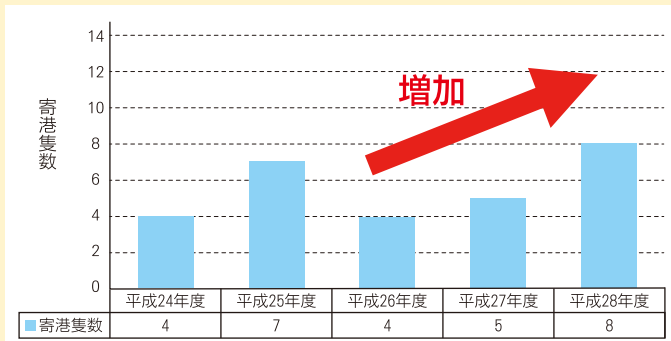
## —第36回— 徳島小松島港におけるクルーズ船の寄港

徳島小松島港では、阿波おどり開催時期を中心に大型クルーズ船が例年寄港しており、今年も8月12日の「飛鳥Ⅱ(50,142トン)」(金磯岸壁)を皮切りに、13日には「ダイヤモンド・プリンセス(115,875トン)」(赤石岸壁)、14日には「ばしふいっくびいなす(26,518トン)」(金磯岸壁)、15日には「にっぽん丸(22,472トン)」(新港岸壁)、18日にも「にっぽん丸」(新港岸壁)が寄港しました。

クルーズ船入港時には、歓迎式典が催され、本場の阿波おどりはじめ、小松島市の義経太鼓、地元の物産展などが行われました。

今年も国内船だけではなく、昨年度に引き続き外国船もこの時期に寄港し、日本人のみならず多数の外国人にも徳島の伝統文化を体験してもらいました。

当事務所では、今後の地域の活性化のためにも、できるだけ多くのクルーズ船が利用できるよう、港湾施設の改良等を検討していきます。



徳島小松島港へのクルーズ船寄港数

※H28年度は寄港予定(H28.9.1現在)2隻含む



8月12日「飛鳥Ⅱ」寄港



8月13日「ダイヤモンド・プリンセス」寄港



8月14日「ばしふいっくびいなす」寄港



8月15日、18日「にっぽん丸」寄港

## ご報告

### 小松島港湾・空港整備事務所 土木学会「技術開発賞」 & 全日本建設技術協会「全建賞」を受賞

小松島港湾・空港整備事務所は、平成28年6月10日に、土木学会より「技術開発賞」を、また同月28日に全日本建設技術協会より「全建賞」を受賞いたしました。

土木学会「技術開発賞」は、計画から維持管理等にわたり、創意工夫に富むと認められる技術を開発・実用化し、土木技術の発展を通じて社会に貢献したと認められるものに授与される賞ですが、撫養港海岸整備事業において、浮力を利用した無動力・全自動で起立する陸閘「フラップゲート式陸閘」の技術開発を、早稲田大学、京都大学、日立造船、沿岸技術研究センターと共同で行い、実用化させたことが評価されました。

全日本建設技術協会「全建賞」は、建設技術の活用、公共事業の進め方や運用の工夫等により、成果が得られた、もしくは成果を得ようとした事業を実施した機関に与えられる賞ですが、徳島県と当事務所が共同で平成21年度より進めてきた、徳島市沖洲地区における複合一貫輸送ターミナル事業が評価されました。この事業は、四国唯一の東京・北九州を結ぶフェリーの大型化に合わせて、現在建設中の四国横断自動車との輸送アクセスを強化し、またフェリー岸壁を耐震強化岸壁とすることで、災害時にも重要な役割を果たす、地域の産業と安全を支えるための事業です。



土木学会「技術開発賞」



全日本建設技術協会「全建賞」

読者のみなさま

読者のみなさま、こんにちは、事務所長の佐野でございます。

台風10号、12号の襲来とともに、ようやく秋の気配が感じられるようになりました。

今般、当事務所の港湾業務艇が、「しまかぜ」から「ひのみね」に新しくなったことに併せて、去る8月5日に簡単ではございますが、就航式を執り行わせていただきました。小松島市をはじめ、関係機関の皆様には、多大なるご協力を賜りました。今後とも、円滑かつ効率的に事業推進を図っていく所存ですので、引き続き、よろしくお願い致します。



小松島港湾・空港整備事務所長 佐野 正佳

## 出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座（みなと学習、環境学習、防災学習）を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所  
TEL (0885)-32-3357

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」  
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>  
よりお問い合わせください。